

うづき物語

中二

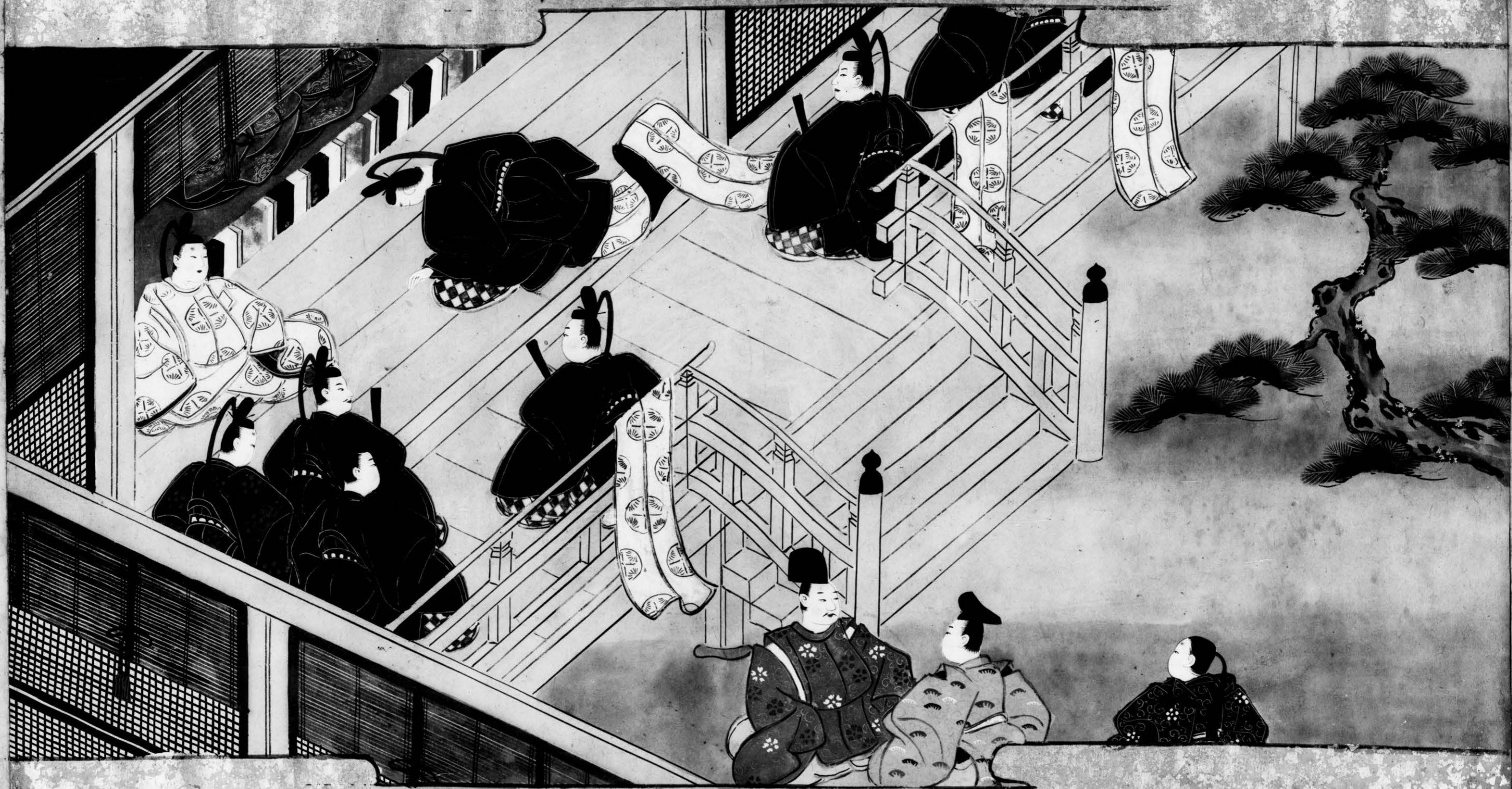
545
7
14

545
ウ
14



九州大學圖書印

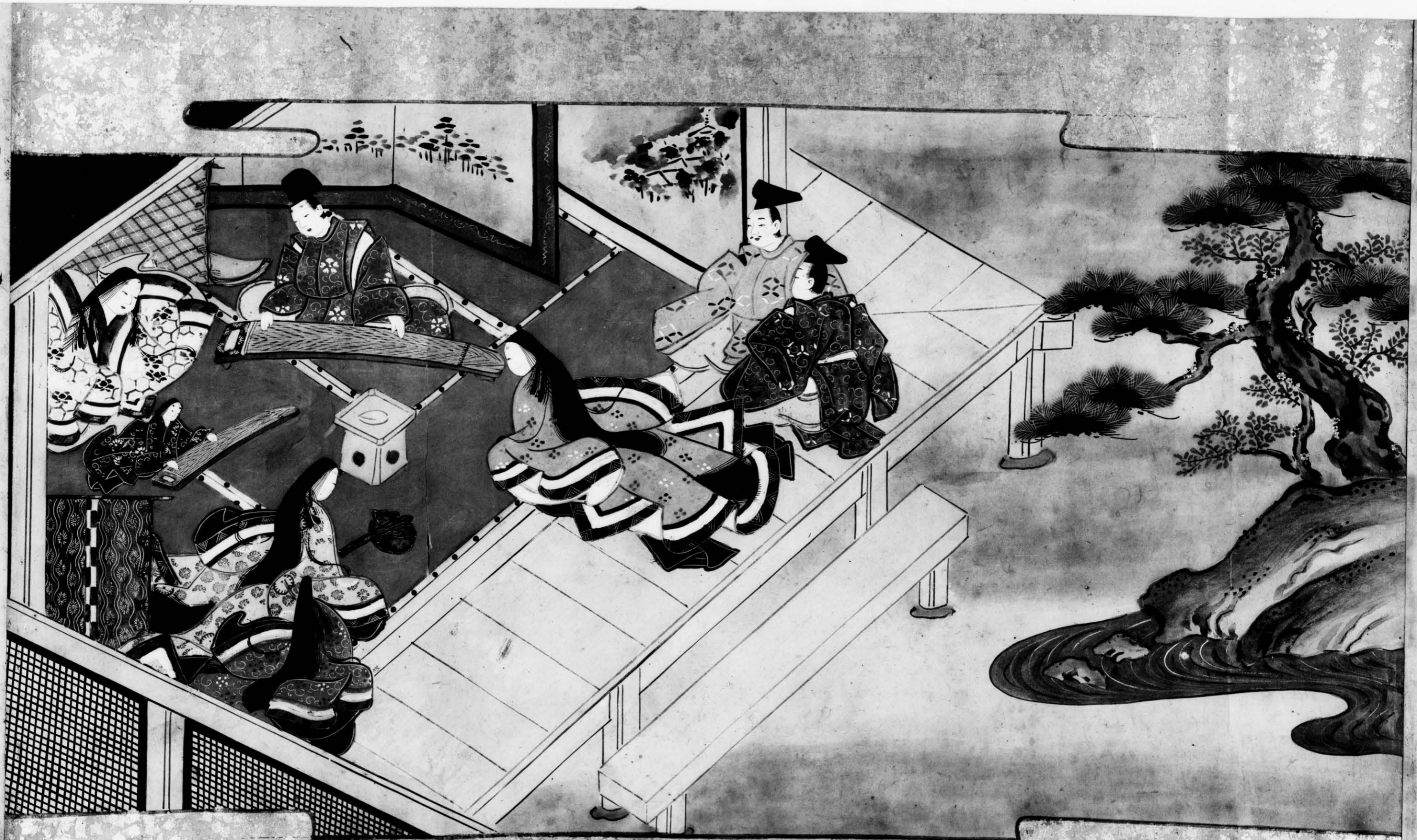
中
上
下



中
上
下

わりのあをせといふは親隆よといへりつる沙門
琴ををらひてあはれまはるるに死あり出くかし

沙門のあはれまはるるに死あり出くかし
その作しとて自らまじりてあはれまはるるに死あり出くかし
よとてあはれまはるるに死あり出くかし
とて西門のあはれまはるるに死あり出くかし
派のあはれまはるるに死あり出くかし
て作しとて自らまじりてあはれまはるるに死あり出くかし
まはるるに死あり出くかし
よといふは親隆よといへりつる沙門
て死あり出くかし
月申は十日は夜は雷念れとてあはれまはるるに死あり出くかし
帝大は琴ををらひてあはれまはるるに死あり出くかし
よといふは親隆よといへりつる沙門
ゆくりとてあはれまはるるに死あり出くかし
あはれまはるるに死あり出くかし
よといふは親隆よといへりつる沙門
いしとてあはれまはるるに死あり出くかし
字をせしめしとてあはれまはるるに死あり出くかし
らあはれまはるるに死あり出くかし
後落一人とてあはれまはるるに死あり出くかし
しとてあはれまはるるに死あり出くかし
物の師とてあはれまはるるに死あり出くかし
てあはれまはるるに死あり出くかし



このやうな家の中へ来てはかりに後よゝんをす
 下にこゝろのやうにあらはしよふにけりあ
 らぬえいやうな人かゝるにあらぬにあらぬ



このがと家すあつてかりに後よをす
 十二にまあつてさうらうさうさうさうあ
 むりえうやえそふかふかふかふかふか
 らうらうらうらうらうらうらうらうら
 大いじとあふもつたふかふかふかふか
 つつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちち
 珍ふてちちちちちちちちちちちちちち
 くら後氏子とつとつとつとつとつとつと
 かりうらうらうらうらうらうらうらうら
 つのつとつとつとつとつとつとつとつと
 してつとつとつとつとつとつとつとつと
 あげあつてつとつとつとつとつとつと
 琴をあつてつとつとつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ぬかた後つとつとつとつとつとつとつと
 一母とつとつとつとつとつとつとつと
 父やつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちち
 まつとつとつとつとつとつとつとつと
 ねまつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつと
 我子あつてつとつとつとつとつとつと
 一母とつとつとつとつとつとつとつと
 になつとつとつとつとつとつとつとつと

わかすかすのいづれもわづらひてたむけし
 としあはれしうらみそがきれはるるを
 我子あゆくさびのききとせにありぬ天の
 一甲をもとむらふ我のあはれこころは
 おねたに誰ふとくくわびんけりき誰
 ろりりし知きんも命あ後女子もあ
 きりりかすこころは物かあはれあは
 らく言をてあはれあ事をきていふあ成ま
 の角かすいよはくつとてあわはれあわりの
 ら下かすりあらんをほめていひるああ
 ぬあ琴綿の袋又入るつこころは
 命あ一し端はあをせうらせとせと云
 け琴我のあはれあはれあはれあはれ
 たああああああああああああああ
 死せれたあああああああああああ
 んああああああああああああああ
 命あああああああああああああ
 小あああああああああああああ
 是あああああああああああああ
 り一ああああああああああああ
 けあああああああああああああ
 業あああああああああああああ
 のあああああああああああああ
 きあああああああああああああ
 あああああああああああああ
 あああああああああああああ
 あああああああああああああ

つわのきさきからくはなれしはしほのり

きさきけのいよしほきほしはなれくはなれ

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

あしはしほのきさきはなれしはしほのり

いふくぬらひもさかきとあついでいひわりの又
わらぬのこころもくればさういふかれ家たさ
後には西白りし前かまの家しあつてうた
本かりしうらぐ草れさゆりし死ねとあつてか
とわがしつと前しと友にわがまにわ入はく
りふかたうらほされの草藤さうせいろりうら
められしうらめ言わぬかもしも成ぬるま
のちさういひぬりさみりさういふさあつて
てかくら

傳人の月りの夜をまはれるの言ひ

つとむ所誂てあつていひりうらてあんなあまきり
くして八月の中お十日のうらに時つとぬる月か
あつては雲霧は後始まるをさういふ人なうさう
のさかきつれいひうらうらてあつては家
おあつては後かき人なうさういひはうら
教あつては死かき人をさういふ人なうさう
まきりてみりて後かき人なうさういひは
まてはさういひ死てあつては男又十の葉
りうらてあつてはさういひはうら
多うらてあつてはさういひはうら
わらうらてあつてはさういひはうら
けつては月の中ら後かき人なうさういひは
とあつてはさういひはうら
さういひはうら
さういひはうら
さういひはうら

吹風のすねくさうら

さういひはうら

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

立のつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

吹風のち孫くあふく一死に死のふ人死神

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

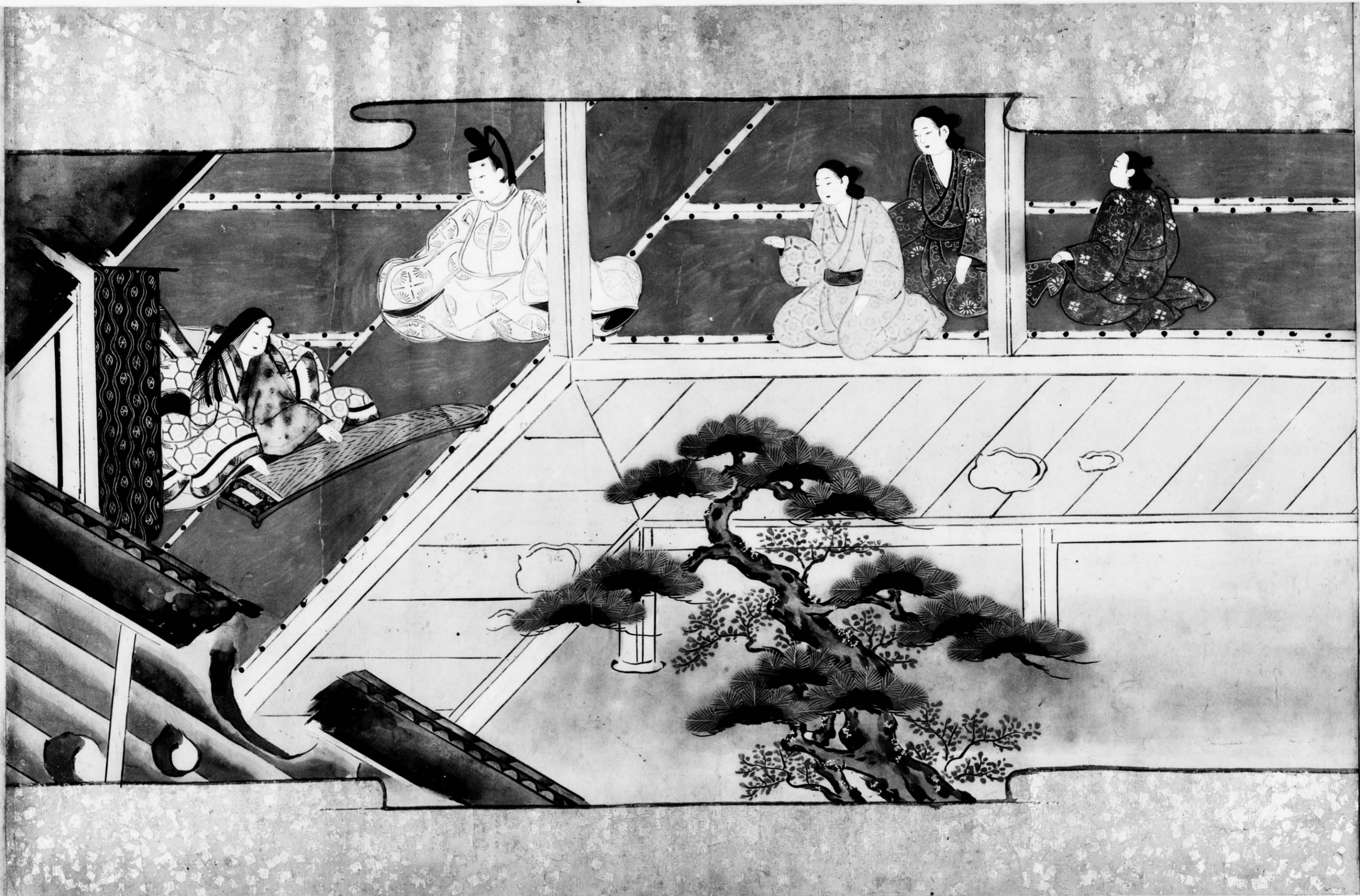
あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

あしとつらふたの尾死にれ之のち中孫く死且

此のふとみへしとておの月かかみ毎たり
へつりかえらるお前住らん人びのた
していりかた

じーせにせあらたせせの浅芽生り
独修らん人さをもなりとて御の事をお入
治してはのれにまかり治つてもいんさふしは
多し病のこいへもし治るま祿く隈かじもま
れらるり治らんこなるのうらとて御を
て琴をみまはしといへんをまかり治らんあわ
りなくはしとては月かかみかたといひて
しにわけるて治らんへり治らんあわ
治らんおの治らんといへんをまかり治らんあ
しといひては月かかみかた
まかりわらんあはれ月かかみへり治らんあ
つらん人さかたへり又
へわれらるせし治らんあはれ月かかみかた
して歌謡らんあはれ月かかみかたへり
しといひては月かかみかたへり治らんあ
こたへりといへんをまかり治らんあはれ
治らんあはれ月かかみかたへり治らんあ
んといひては月かかみかたへり治らんあ
はれ月かかみかたへり

あはれ月かかみかたへり治らんあはれ
あはれ月かかみかたへり治らんあはれ
あはれ月かかみかたへり治らんあはれ



此の歌を歌一よのれ花くさなりしあり
あしとわいしのかんまひ今よりあしとわいし
あしとわいしのかんまひ今よりあしとわいし
あしとわいしのかんまひ今よりあしとわいし

